
僕の友達

ロイアル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の友達

【Nコード】

N7062H

【作者名】

ロイアル

【あらすじ】

僕の友達が幽霊になっても僕に会いに来た

僕は、何処にでもいるような中学生でした。

僕は中学に入学し、サッカー部に入り、1日1日を楽しく過ごしていた、ある時です。

僕は、いつも仲良しな友達と一緒に学校に行ったり、帰ったりしていた時、いつもより自主練が遅くなり暗くなってしまった時、早く帰ろうと、僕と友達は慌てて帰りました。そして、帰る途中に友達が「忘れ物をしたから先に帰ってて」と言うので僕は「下のスーパ―で待ってるから」と言い待っていました。

そしたら、30分や一時間経っても帰って来なく、そして、目の前を救急車が横切り、心配になり様子を見に行こうとした瞬間、友達が戻って来ました。でもいつもと様子がちがうなとも、一緒に帰りました。「何かあったの?」と言っても、「何もないよ」いつも通りの返答してきたので、安心しました。

それで、友達と別れる時、いつも通りに「ばいばい」と言ったら、「今までありがとう。サッカー頑張ってるね。」と振り返るとそこに友達はいませんでした。

僕は気のせいかなと思い、普通に帰りました。

次の日、いつも通り待つ会わせ場所で待ってても、来ないので具合でも悪いのかなと思い、先に学校に行きました。

学校に着いた時、クラスみんなが泣いてるので、「何かあったの?」と聞いたら、その友達が亡くなったって言うんです。

僕はそんなはずないと思い、学校から抜け出し、友達の家に向かいました。

そしたら、畳上の布団に寝てる、友達と泣いてるお母さんがいました。

恐る恐る、近づいてみると顔色がわるく、顔が傷だらけでした。触ってるみると、冷たかったです。僕はお母さんに、「いつも一緒に

居てくれてありがとうね』と言ってました。昨日の帰りに学校の近くで、信号無視の車にはねられたそうです。最後に俺に会いに来てくれたんだと、泣き崩れてしまいました。

それから、お通夜が始まり、葬式が終わり、部活も始まりました。もう一度、友達が僕の前に現れたら、一言言いたいです。有難うと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7062h/>

僕の友達

2010年10月11日02時15分発行